

# 道徳通信かがわ

第38号

令和2年1月17日（金）

香川県教育委員会事務局

義務教育課

## 犬とのふれあいを通して「命」の大切さを学ぶ

県教育委員会では、生きることの意味や命の大切さを児童生徒が実感できる道徳教育を充実させるため、常に「生死」に直面している助産師や消防職員、介護福祉士、獣医師、戦争体験の語り部の方々に、生命の輝きや死に直面した時の思いなどについて語っていただく「いのちのせんせい」派遣事業を行っています。本年度はその一環として「子ども笑顔のラインプロジェクト」が、令和元年10月29日に高松市立三溪小学校、10月30日に綾川町立昭和小学校で実施されました。

☆☆☆「子ども笑顔のラインプロジェクト」とは？☆☆☆

小学校における学校教育の一環として、動物に触れる機会が少なく「命」に対して関心が薄くなりつつある子どもたちに対し、「動物にふれあい、動物について正しく学び、考え、感じる体験型授業」を通じて、子どもたちの心を豊かにすることを目的とした教育支援活動。一般社団法人ナチュラルドッグスタイルが主催し、文部科学省と環境省が後援している。本年度、本事業を香川県で実施した。

### 【犬とのふれあい授業の様子】

#### 高松市立三溪小学校

犬と人間との「寿命・時間」「大きさ」「表情」を比較して、どのようにふれあえばいいかを学びました。犬の特技を見た後、グループに分かれ1人ずつ挨拶し、犬ともっと仲良くなるためにはどのように接したらいいか考えました。子どもたちは、犬にとって人間はバスくらい大きく感じるということや、犬の寿命から考えると犬が感じている時間の流れは人間より早いということを体感的に学習しました。



事後の道徳科の授業では、「なかよし 2年」（香川県小学校道徳教育研究会）の「ハムスターのあかちゃん」を教材に、言葉がなくても、表情を見たり想像したりすることが、命を大切にすること、命を守ることに繋がると考えました。

#### 綾川町立昭和小学校

犬の「目」「鼻」「指・肉球」の観察をして、違いや同じところを発見したり、人間と犬の心臓の音を聞き比べたりして、8匹の犬とふれあいました。子どもたちは、まず自分の匂いを匂わせて下から触ると仲良くなれることを理解しました。犬が苦手な子どもも、ぶにぶにした肉球を触ることができ、実際に自分の耳や手で生きていることを実感しました。



事後学習として、「みんなのどうとく 2年」（学研）の「ごめんね、みなみ」を教材に、自分がその動物だったらという視点で考えることの大切さを学びました。